

科目名		授業形態	担当教員名	
小児科学		講義	黒江 兼司	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（ 2 単位）		15 回	2 年次	前期
授業の目的・概要				
正常の小児の発育・発達を知るとともに主に障害を伴う小児疾患について解説する。				
授業の到達目標				
小児の標準的な成長および発達を知ることにより、障害の程度を適切に把握できるようにする。 また、主な病気の原因・病態を理解することにより、医療人・社会人としての小児をとりまく問題の基本を理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	小児科総論：人口問題、少子高齢化、生命のリレー（胎児）			
2	小児成長と発達：正常発達と遅延、多様性			
3	新生児期疾患と予後1：未熟児、新生児メレナ、食道閉鎖、十二指腸、小腸閉鎖、鎖肛、胆道閉鎖			
4	新生児期疾患と予後2：横隔膜ヘルニア、水頭症、トリソミー（13, 18, 21）、胎児感染			
5	小児感染症総論と発疹症・ワクチンの現状（B型肝炎母子感染予防を含む）			
6	小児の症状・救急疾患と対応：不慮の事故、心肺蘇生、AED			
7	小児循環器疾患の理解：先天性心疾患（肺体血流比、チアノーゼ、血圧）、川崎病、不整脈			
8	消化器疾患症状と疾患：嘔吐下痢、腸重積、肥厚性幽門狭窄、メッケル憩室炎			
9	内分泌・代謝疾患：下垂体の働き、クレチン症、小人症、尿崩症、糖尿病、アセトン血性嘔吐症・低血糖			
10	血液・腫瘍性疾患：血友病、急性白血病、特発性血小板減少性紫斑病、神経芽腫、Wilms腫瘍			
11	呼吸器・耳鼻科疾患：呼吸器感染症、気管支喘息、気管軟化症、気管狭窄、無呼吸、アデノイド			
12	アレルギー・炎症性疾患・膠原病：食物アレルギー、アトピー、若年性関節リュウマチ、アレルギー性紫斑病			
13	腎・泌尿生殖器疾患：腎炎、尿道下裂、尿管膀胱逆流、腎盂炎、停留睪丸、そ径ヘルニア			
14	神経・筋・運動器疾患：熱性けいれん、點頭てんかん、脳炎、髄膜炎、筋ジストロフィー、重症筋無力症			
15	まとめ			
成績の評価法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学	富田豊 編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				